

「練習は時として嘘をつく」

清水 泰生

私は、二度韓国に行ったことがあるが、ソウルではなくプサンだった。ソウルはいいところだよという話をいろいろな人から聞いていたが「百聞は一見に如かず」と思ったのでぜひ行ってこの目でソウルを見てみたいと思っていた。

今季のマラソンはソウル国際マラソンでと思い、エントリー開始とともにエントリーをした。高麗大学の日本センターの先生に以前から「ソウルそしてうちのセンターにぜひ来てください」と言われていた事と2012年ソウル国際マラソンにエントリーをしていたが、その年の2月末に父が亡くなったので、ソウルは行かずじまいになっていたので今年こそはと思いエントリーした。3月17日、関西空港発金浦空港行の飛行機でソウルに向かった。1時間40分ほどでソウルへ、地下鉄に乗って韓国の歌人李さんが経営しているホテルに向かった。このホテル、『地球の歩き方ソウル』に載っていて、ガイド書の地図にもホテルが載っていたので問題なく着くことができた。その日は、ホテルに着いてそこで一日は終わった。次の日、日本センターへ。曹先生と地下鉄、安岩駅で落ち合い、それから日本センターに向かった。センター到着後、曹先生に図書室等を案内してもらい、そして、近くの韓料理店で、センターの蔡先生、白先生、曹先生と研究についてなど和やかな話をした。その時に『研究社日本語口語辞典』『教育とことわざ』『家族とことわざ』『笑いのことわざ』『郷土のことわざ』を献本した。

翌日19日ソウルオリンピックスタジアム前でマラソンエキスポが開催され、そこでナンバーカード(ゼッケン)をもらった。エキスポの出店の少なさ、人の少なさには驚いた。今回最初のエキスポだから仕方がないのかなあとと思った。その日はホテルに早く帰り、翌朝のマラソンに備えた。

次の日20日の朝、いよいよソウル国際マラソン。8時スタートなので4時起床5時に食事をとる。ここまでは準備万端、しかし「油断大敵」という言葉が何となく頭をよぎった。

スタート地点に7時に到着、寒い、噂の極寒ではなかった。さてトイレに行こうと思ったらトイレが少なく、かなり待たされた。何とかトイレをすませ、日本事務所付近に戻ると「ゴールに荷物を運ぶトラックが出るので、早く預けるように」と言われ、慌てて荷物を預けてしまい、ワセリンを鞆の中に入れてしまったので、ワセリンを太ももに塗ることができなかった。8時スタート。5キロ、10キロと1キロ4分10少し切るペースで進んだが15キロ付近のビル風でお腹が冷え腹痛、それが収まったと思ったら18キロ付近で右足ふくらはぎが、けいれんを起こしかかって3時間切りのペースから3時間30分台で何とか完走することに軌道修正せざるを得なくなった。練習が割りとうまくいっていたのに…。山口先生のマラソン創作ことわざ「練習は時としてうそをつく」ということになってしまった。

あとは慎重に走ったので予定通り3時間31分台でゴールしたが、何か物足りなさを感

じた。

さて、マラソンも終わり、明後日22日帰国で、明日21日は宿舎でのんびりしようと思っていたが、李さんの部下である崔さんが、21日硬化門、ソウルタワーに案内してくれた。マラソン直後で少し疲労感があったが、ソウルの良い思い出になった。

そして、観光見物の次の日22日の午後の便で帰国した。

マラソンは満足した成績ではなかったが、今回、ソウルの街、ソウルの人たちの暖かさを感じることができてよかったと思う。また、ソウルに行きたいと思う。

以 上

